

# 筋ジストロフィー患者の 排泄方法選択への支援

7病棟 品田葵



## 7病棟とは

神経難病患者が9割入院している

→そのうち筋ジストロフィー患者が7割入院

## 筋ジストロフィーとは

- 徐々に身体機能が低下するが、尿意・便意は維持されるため、尿器・ゴム便器を使用
- 側弯や骨格の変形が進み、排泄困難を感じたり、体位調整や排泄に時間要する
- ゴム便器での排泄や同体位で長時間いることに身体的苦痛が生じやすい





ゴム便器から  
紙オムツ排泄に  
変更した患者

排泄が楽になった為、皆も紙オムツに  
変えればいいのに

紙オムツに変更することは、  
病状進行を認めることとなる為、  
慎重に進めたほうが良い





看護師

- 看護者は患者の思いを第一に考え、安楽に排泄できる様、支援したいと考えている
- 
- ゴム便器で排泄している患者の苦痛軽減となるよう紙オムツ排泄を提案したが、ゴム便器使用継続の希望が多くあった
  - 紙オムツへの変更は患者が安楽に排泄できる方法であるが、提案方法が不十分のため排泄方法変更を進めることができないと考えた





## A氏、30歳代男性、 デュシェンヌ型筋ジストロフィー

ゴム便器で排泄を行っていたが、病状の変化があり、ゴム便器での排泄時、身体的苦痛を訴え、ゴム便器での排泄が難しくなっていった。しかし、紙オムツ排泄を拒否するA氏に以下の提案をおこなった。

- ①病状が悪化している現状は、紙オムツで排泄を行う。  
症状が改善すればゴム便器に戻ること。
- ②排泄方法の最終選択は、患者が行う。
- ③一時的に紙オムツ排泄を行っても、再び本人の希望によりゴム便器での排泄に戻せること。

提案後、A氏は最終的に紙オムツでの排泄を選択した



紙おむつへ排泄方法を変更したA  
氏に心情の変化について聞き取り  
を実施





## ゴム便器での排泄を希望し続けた 理由



A氏

ゴム便器は、便とかが直接お尻  
につかないところが良かった。





## オムツの使用感について



A氏

- 利点
  - ゴム便器よりオムツの方が楽だった
  - オムツは体勢を大きく変化させずにお尻の下に入れるだけで楽だね。
- 欠点
  - もし長時間オムツをつけると蒸れて痒くなったり、赤くなるのが気になるところかな。





オムツから再度ゴム便器での排泄  
に戻してどうだったか。



A氏

- ゴム便器を使う時はポジショニングが難しく体勢が整うまで辛かった。肺炎の時は便器を入れると胸が反って苦しかった。
- 急にぐっと横を向いたり、お尻を持ち上げると目が回ってしまう。
- お腹にガスが溜まり胸が張っている時に、腰を持ち上げるとその時に苦しくなる。





## 排泄方法をオムツに決めた理由



A氏

- オムツの方が安全面でいい。
- ゴム便器とオムツを使ってオムツが楽だと思った。
- 胸が反った体勢にならないから。
- 便器に掛かるのが辛くなってきただけ。





## 排泄方法変更に抵抗はなかったか



A氏

- 誰かに言われて排泄方法を変えたんじやなく、自分で変えることを決めたから抵抗はなかった。
- 納得していないのに変えちゃうとかじやなければ大丈夫。「してみたらいんじやない」って提案されて考えるのは大丈夫。





看護師から排泄方法変更を提案されるのはどうか



A氏

- 自分で納得できないとしづらいことがあるから。「しろ」と強制されたらいやだけど、提案ならいいんじゃないかな。それに急に変えるのではなくて提案されるのであれば、納得できるかな。





A氏

ゴム便器での排泄に苦痛を感じ、紙オムツの方が安楽に排泄できると思っていた。しかし、オムツを使用することで感じる不快感等の理由からゴム便器にこだわり続けていた



A氏は肺炎に罹患し呼吸状態が悪化したことを見きっかけにゴム便器・オムツ両方の排泄方法を試し、両方の利点と欠点を自分自身で考えたことで、自身でオムツに排泄方法を変更した





A氏

自身で排泄方法を変更することで、紙おむつを使用することで感じる不快感よりも身体が楽で呼吸も安定する方法で排泄したいという考えに変化した



A氏は自ら排泄方法を変更したため、抵抗はなく行動変容が行えた。

A氏は他者に決めてもらうことに抵抗を感じてしまう性格であり、自身で選択できる「看護師からの提案」という方法が適していた。



- ・患者さんが納得して介助方法を変更できるためには、私たち看護師がいろいろな提案をし、患者さん自身が選択できるよう働きかけることが大切だと思います。
- ・徐々に体が動かなくなっていく中で、患者さんの意思決定を支援するにはタイミングを見逃さないことが必要です。そのために、今後も信頼関係を気付けるよう関わっていきたいと思います。



ご清聴  
ありがとうございました

